

We will make a fresh step everyday.


〈にっしん〉

2011年9月仮決算から




彫画:伊藤 太一



 **日新信用金庫**

〒673-0892 明石市本町2-3-20

もしもしコール イコー ニッシンバンク

 **0120-15-2489**

(受付時間 平日午前9時から午後5時まで)

FAX 078-912-4589

<http://www.nisshin-shinkin.co.jp/>

(ホームページには仮決算に関してこのミニガイドに掲載している以外の計数もあわせて公表していますのでご覧ください。)

「復興おうえん定期」 ご協力ありがとうございました

東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

被災地の復興を支援するため、平成23年4月11日から6月30日まで『<にっしん>復興おうえん定期預金』を取扱いましたところ、多くのお客さまのご賛同をいただき、目標の200億円を大幅に上回る227億円強のお預け入れをいただきました。

心よりお礼申し上げます。

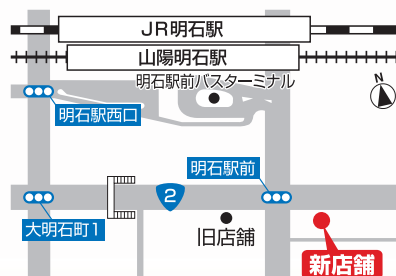
これを受けまして、お預け入れいただきました定期預金残高の0.1%にあたる2,276万345円を7月11日付で日本赤十字社に東日本大震災の義援金として提供いたしました。

被災地の一日も早い復興を心よりお祈りしております。



新しくなりました！

- 明石駅前支店 新設移転 (H23.5.16)。



タコちゃんは元気です！



「タコちゃん定期(一部解約機能付スーパー定期)」は本年度も継続的に発売しております。

- 「タコちゃん・1年生 ともだちいっぱいできたよ！」(4月11日～5月27日)
- 「タコちゃん・1年生 にじがかかった！」(6月20日～8月26日)
- 「タコちゃん・1年生 かけっこいちばん！」(9月5日～10月27日)
- 「タコちゃん・3年生 すずむしりんりんりい～ん！」(9月5日～10月27日)
- 「タコちゃんのおんがくかい(1年もの)」(11月8日～1月6日)
- 「タコちゃん・3年生 シュートがきまった！」(11月8日～1月6日)



自由度の高い積立定期預金「タコちゃん・大きくなあれ」もよろしく。

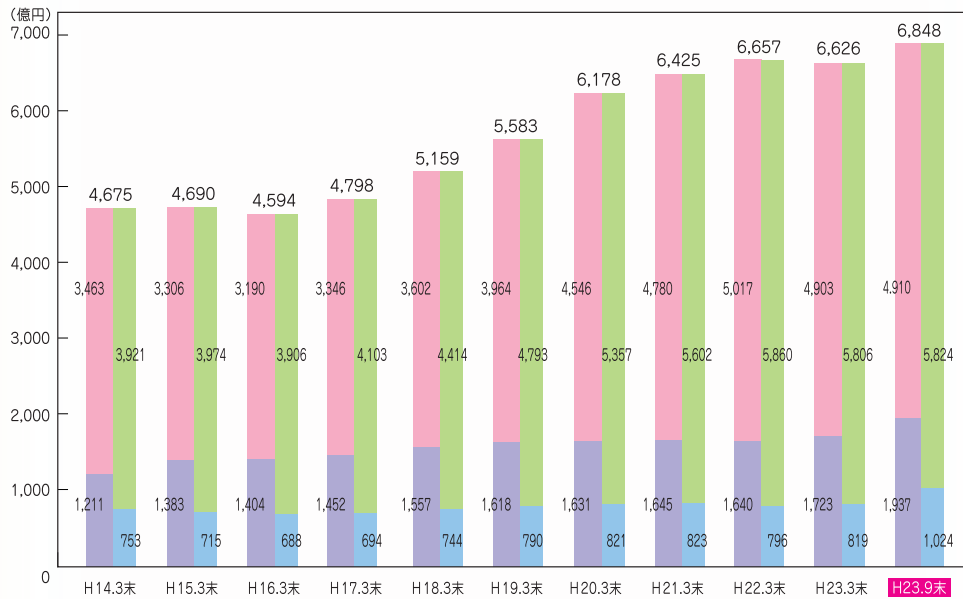
便利になりました！

- 普通預金の通帳繰越がATMでできるようになりました(H23.7)。
- 休日(土曜日、日曜日、祝日、12月31日)も、ATMで通帳(普通預金・貯蓄預金)が使えるようになりました(H23.8)。
- 本年11月には全てのATMが最新機種(BankIT)に変わります。
- <にっしん>メールマガジンの配信を開始しました(H23.6)。
- ホームページの携帯電話サイトを開設しました(H23.9)。

安心です！

- キャッシュカードの磁気ストライプの内容を抜きとられないよう、お取引のつど磁気ストライプ内容を書き換える可変セキュリティコードを追加しました(H23.4)。
- お客様のご理解をいただき、生年月日など推測されやすい暗証番号をお使いのキャッシュカードは本年9月末現在で全体の約6%にまで大幅に減少しました。推測されやすい暗証番号をお使いのお客様は、ATMまたは店頭窓口で暗証番号変更の手続きをお願いいたします。

〈預金〉



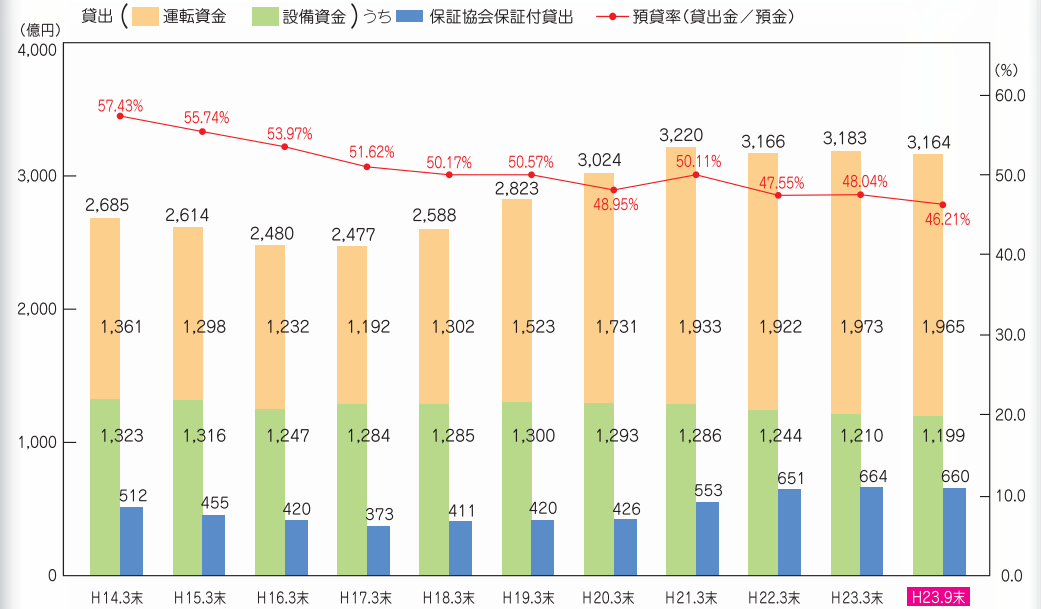
預金はこの半年大きく増加していますが、3月末は地方公共団体等の預金が毎年引出されるという特殊事情がありますので、実態は昨年度上半期よりもやや低い水準で推移していると理解してください。貸出が減少していますので預金を積極的に伸ばしにくい状況にあります。

当面の課題は、流動性預金及び法人預金の構成比を引き上げることです。

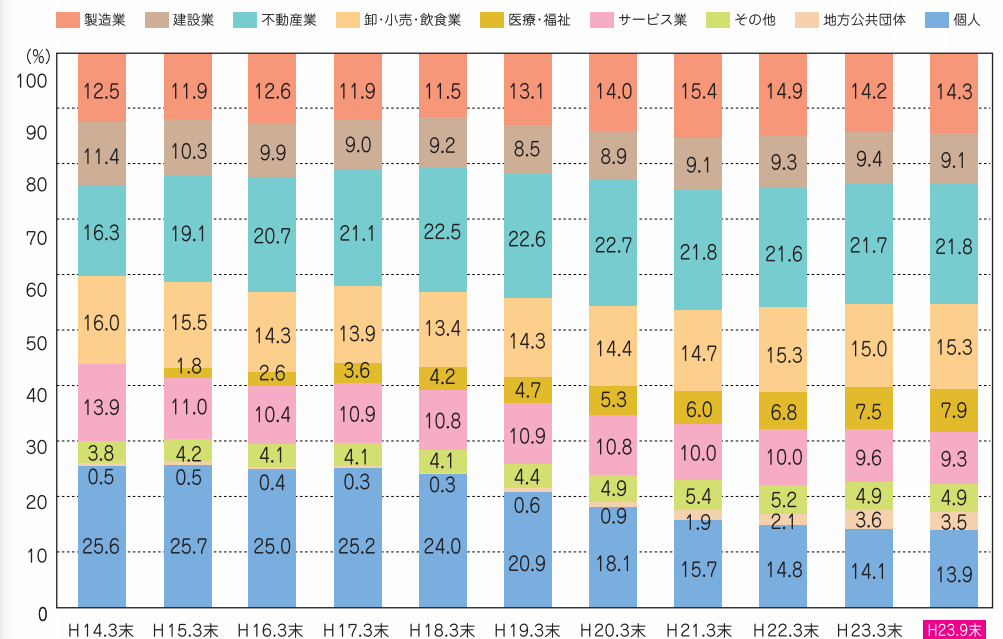
貸出は、H21.3末にピークアウトし、2年半が経過した今も減少が底を打ちません。設備資金はH19.3末をピークに減少しています。保証協会保証付貸出も伸び悩んでいます。貸出の不振は〈にっしん〉に限ったことではありませんが、経済環境はさて置き、皆様に喜んでいただける的確な資金供給になお一層努力しなければならないと奮起しているところです。

貸出の業種別構成はグラフの通りで、医療・福祉(介護もここに含まれます。)が構成比を上げています。地方公共団体向けは現状以上に構成比を上げないよう努めています。個人の大部分は住宅ローンですが、減少が続いています。

〈貸出と預貸率〉

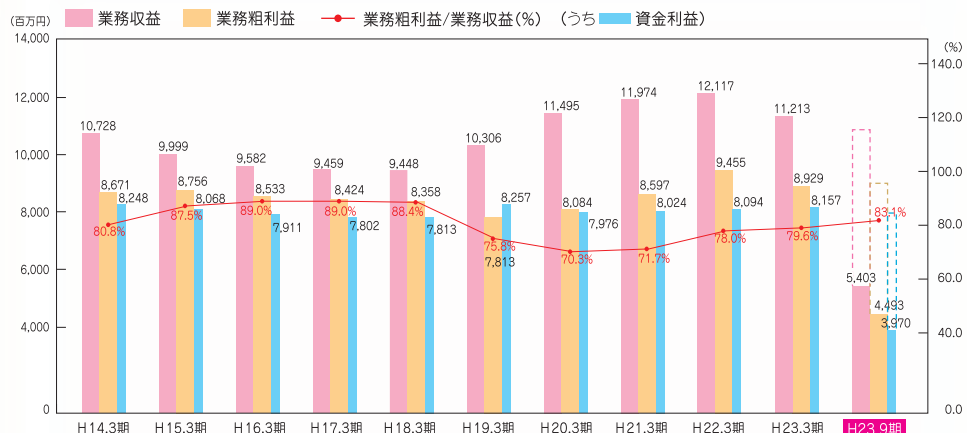


〈貸出金の業種別構成比の推移〉



※H14.3末は、業種別分類で「福祉」は「その他のサービス業」に含まれています。

〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉



(注)H23.09期は上半期6ヶ月間の実績です。仮にこれを単純に2倍したものを点線で示しています。

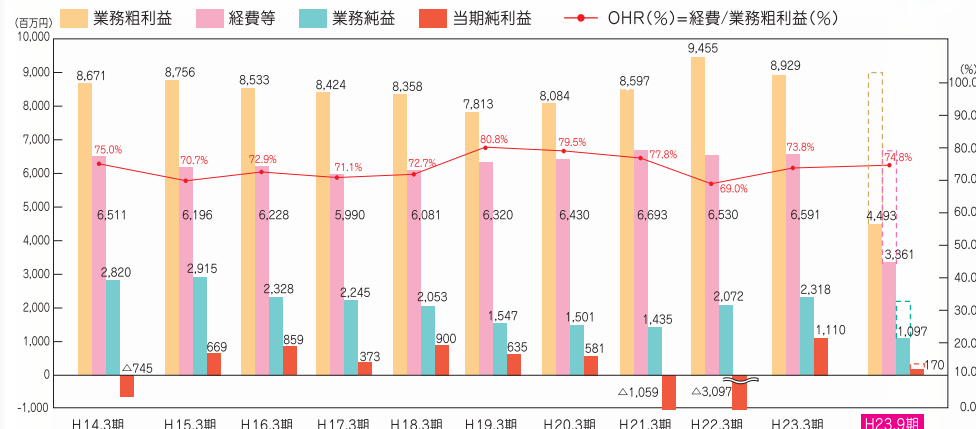
業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役員取引収入等)は、一般企業の売上に当たるものです。この9月期の数字(半年分)を仮に単純に2倍して以前の3月期(1年分)と比較すると、H22.3期をピークに減少しています。またこの9月期は前年同期と比較しても減少しています。これは、金利低下と貸出の減少によるものです。

業務粗利益(売上-預金支払利息等原価)は昨年9月期をやや上回り、利益率(粗利益/売上)は上昇が続いています。

なお、資金利益(貸出と有価証券等運用から発生する利益-預金支払利息)は、中核的(伝統的)銀行業務から得られる利益ですので、これを参考にお示ししています。昨年9月期とほぼ同じ水準です。

〈業務粗利益、経費等、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期利益〉

[参考]業務粗利益-(経費+一般貸倒繰入額)=業務純益



(注)H23.09期は上半期6ヶ月間の実績です。仮にこれを単純に2倍したものを点線で示しています。

経費等(経費+一般貸倒繰入額)が、H17.3期を底に増加しています。そこで、事務処理を効率化して経費を削減することを課題にしています。

当期利益は低い水準にとどまっています。下期全力を挙げます。

(参考) 経費等のうち一般貸倒繰入額は次の表の通り落ちてきています。

	H14.3期	H15.3期	H16.3期	H17.3期	H18.3期	H19.3期	H20.3期	H21.3期	H22.3期	H23.3期	H23.9期
一般貸倒繰入額	△660	△355	△23	188	224	△53	153	468	852	19	34

一般貸倒繰入額は一般貸倒引当金の純増額です。

一般貸倒引当金とは、正常先及び要注意先に対する貸出金総額に一般貸倒引当率を乗じたものです。この一般貸倒引当率は、年度初めにおいて正常先と自己査定していた先でも1年以内に経営困難(破綻懸念以下)に陥る先がありますが、これらの先に対して貸倒引当て等のために投入した費用を合計し、それが正常先貸出総額に対して何パーセントになっているかを算出し、その率を直近3年間に亘って平均したものです。

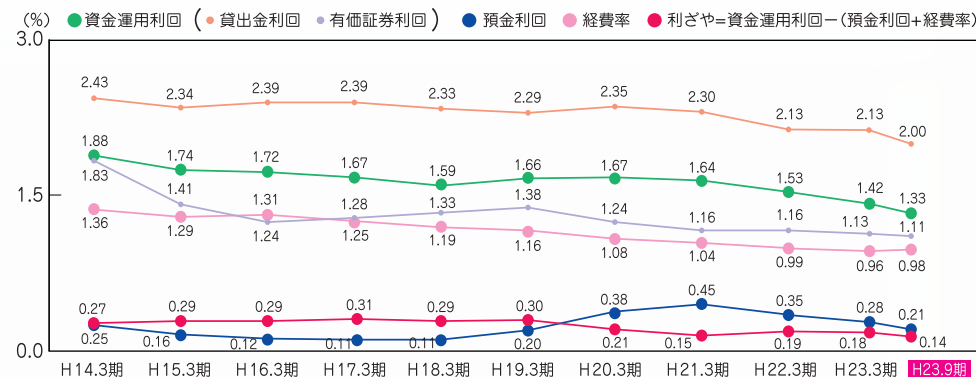
〈資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率〉

各種利回りは右のグラフの通りです。

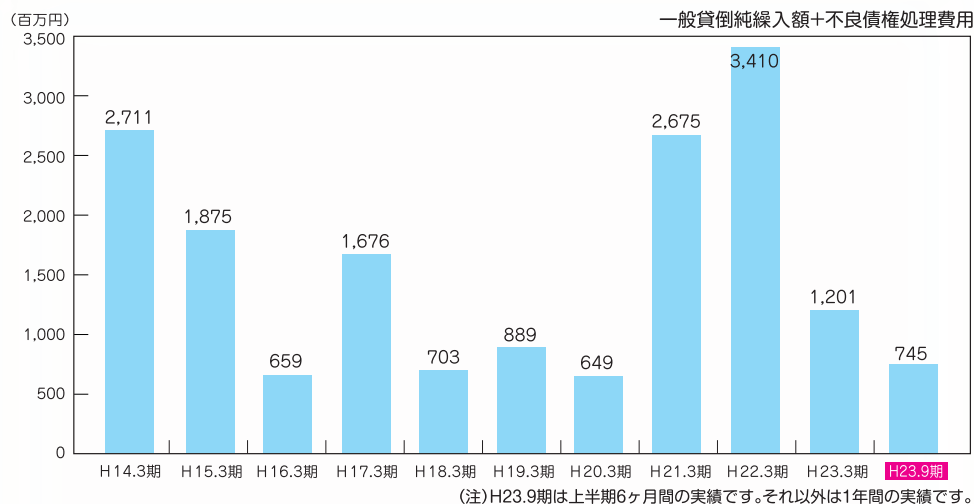
貸出金利回りも有価証券運用利回りも、共にかつてない低水準に突入しています。金融機関にとっては困った経済環境であります。他方、預金利回りはまだ過去最低というわけではありません。

経費率が一転上昇していますがこれは預金が伸びを止めたことが一因です。

利ざやは過去最低となっています。〈にっしん〉としては中期的に経費率を低減させていくことを最重要課題としています。



〈貸出にかかる不良債権処理費用等〉



貸出にかかる不良債権処理費用等とは、正常債権に対する一般貸倒純繰入額、及び不良債権に対する個別貸倒純繰入額・債権償却額等の合計額です。すなわち、将来の発生を見込んで現時点で計上した損失額、及び回収不能となって確定した損失額の合計です。この中には、税法上は未だ損失とは認められず有税処理となっているものも多くあります。

2~3年前に比べて落ち着いていますが、前年9月期に比べると増加しています。貸出債権の不良化を防がなければならないのは当然のことですが、同時に、将来のために引当を十全に行うことも重要です。

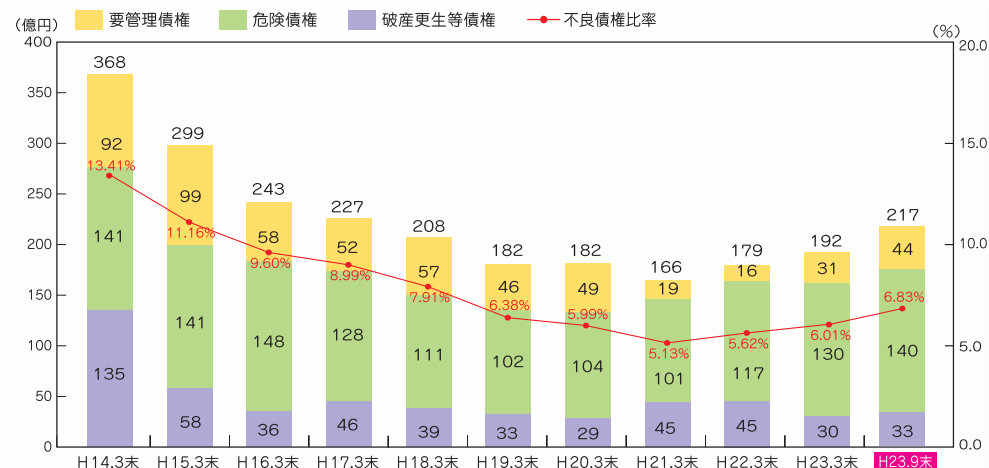
いずれにしろ、不良債権処理費用等がこのところ収益圧迫の一つの要因となっています。

〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

H23.9末現在の不良債権(要管理債権を除く。)は173億円ありますが、その保全状況は右の通りです。

貸倒引当金や担保・保証で保全されている額が148億円です。残り25億円はこれまでの実績から見て回収可能と判断される額です。

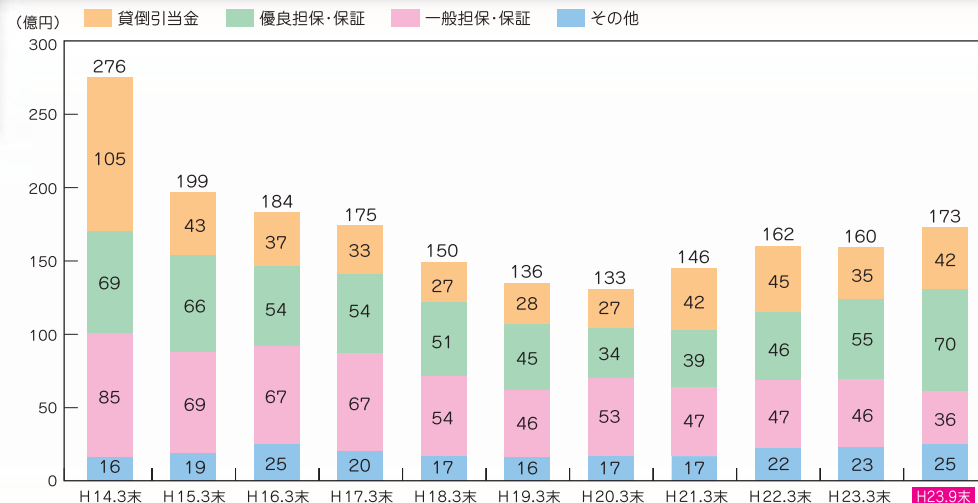
〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉



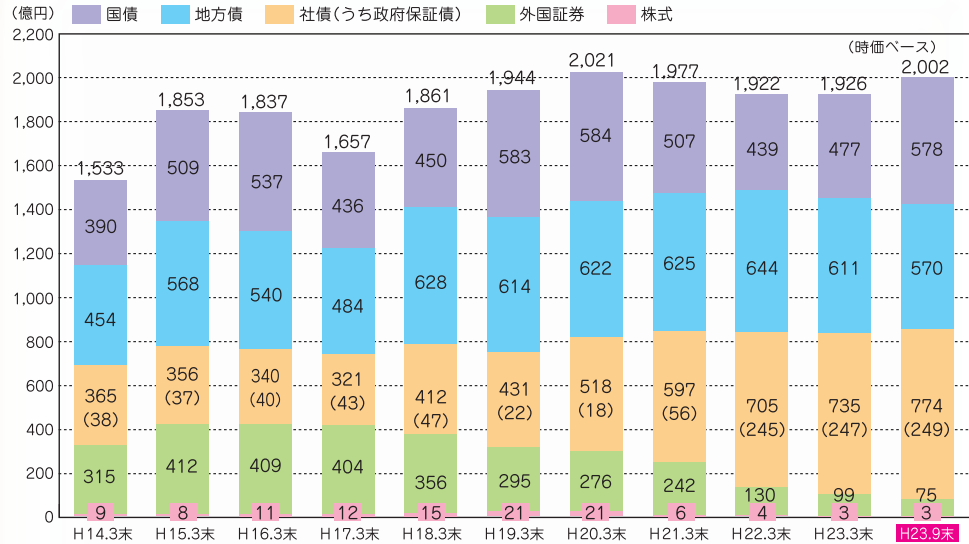
不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類されます。破産更生等債権については未保全額に相当する額を個別貸倒引当金として計上しますので会計上は損失処理を完了していると言えます。あとは担保処分等を行うことになります。

要管理債権と危険債権の合計額は、H21.3末を底に徐々に増加しています。金庫としてはこれらの債権に対して最近の実績から算定した率で引当金を積みこむことにより将来のリスクに備えるとともに、融資先に対しては経営の改善に向けた格段の努力をお願いしています。

融資先との率直な意見交換により良い結果を得ることができるよう態勢整備を図りつつ全力を投入しています。



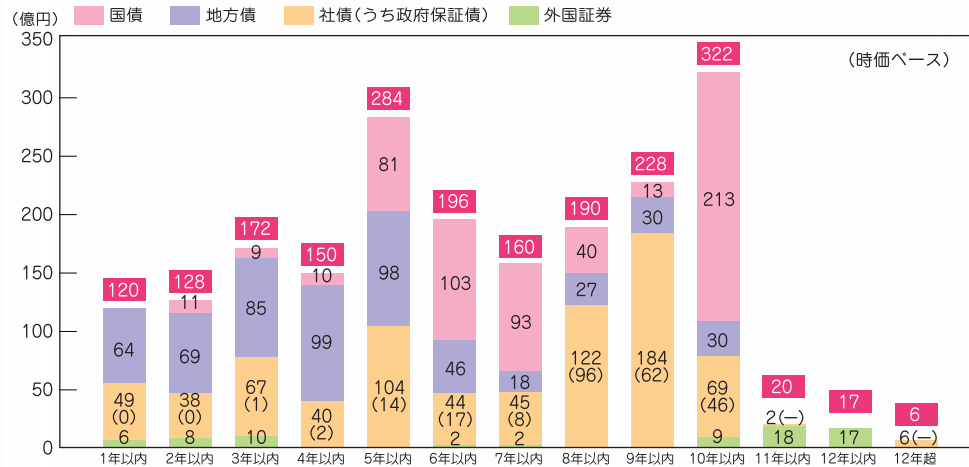
〈有価証券の種類別保有状況(期末残高)〉



有価証券の保有総額に大きな変化はありません。

内訳を見ますと、国債と地方債がほぼ同額です。社債の3分の1近くは政府保証債(カッコ内書きで表示)です。事業債は、格付けがAA以上の発行体が発行するものに対して1発行体30億円の範囲で投資することとしています。外国証券は減らしており、株式はほとんど保有しておりません。

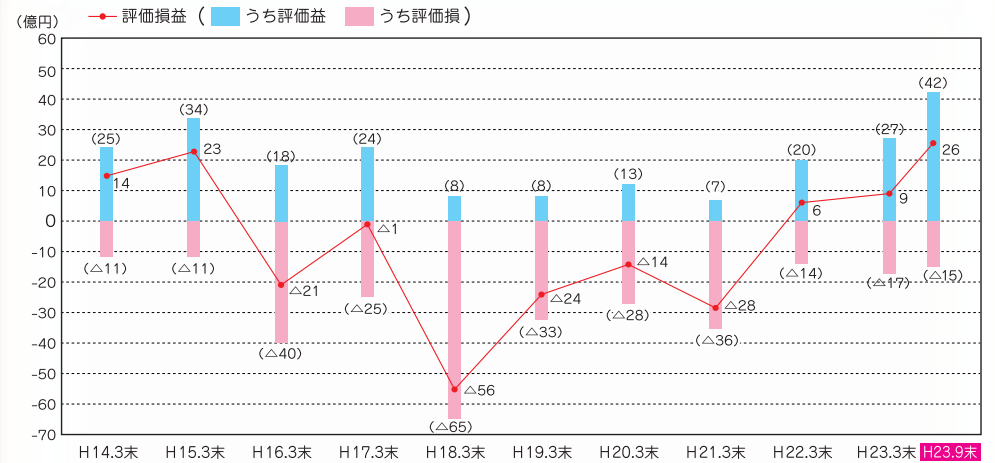
〈債券について、満期償還までの期間別に見た残高〉



有価証券のうち株式を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したものです。10年を超える長期投資はリスクを考えて近年行っていません。

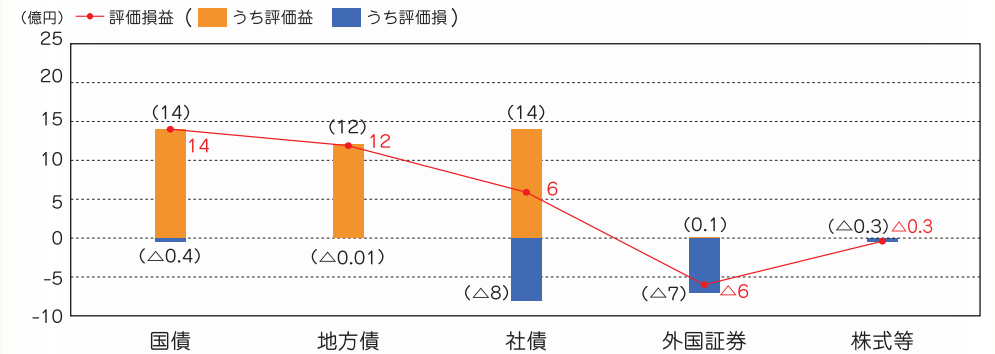
なお、12年超のところは社債6億円が計上されていますが、この社債はH27年度にコールによって償還されると見込んでいます。

〈有価証券の評価損益〉



9月末日現在、評価益の出ている(市場価格が簿価を上回っている)有価証券の評価益合計は42億円、評価損の出ている有価証券の評価損合計は15億円です。全体で差引き26億円の評価益となっています。

〈有価証券評価損益(種類別)〉

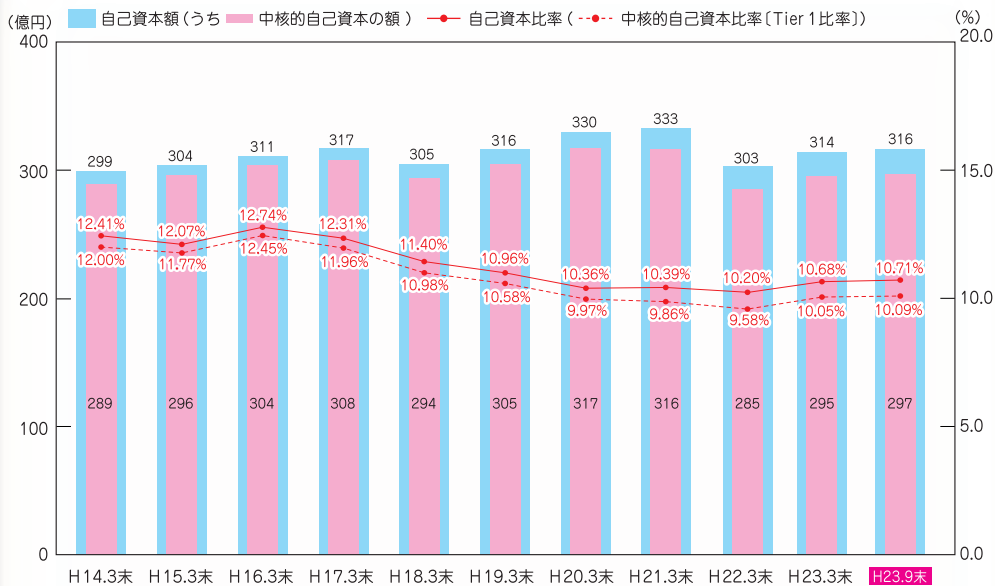


有価証券の種類別に9月末現在の評価損益を示したグラフです。

国債及び地方債については全体として評価益が出ており、評価損はほとんどありません。社債は東京電力債券に評価損が出ておりますが、全体としては評価益が出ています。東電債の一部については、下期に入って売却を進めています。

外国証券は評価損が出ていますので市況を見ながら処分をしたいと機を伺っています。

〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



	H14.3末	H15.3末	H16.3末	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H23.9末
繰延税金資産	15	19	22	18	32	28	23	26	3	1	0

	H14.3末	H15.3末	H16.3末	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H23.9末
リスクアセット	2,408	2,519	2,444	2,573	2,676	2,883	3,185	3,210	2,976	2,941	2,949
(参考)貸出金	2,685	2,614	2,480	2,477	2,588	2,823	3,024	3,220	3,166	3,183	3,164

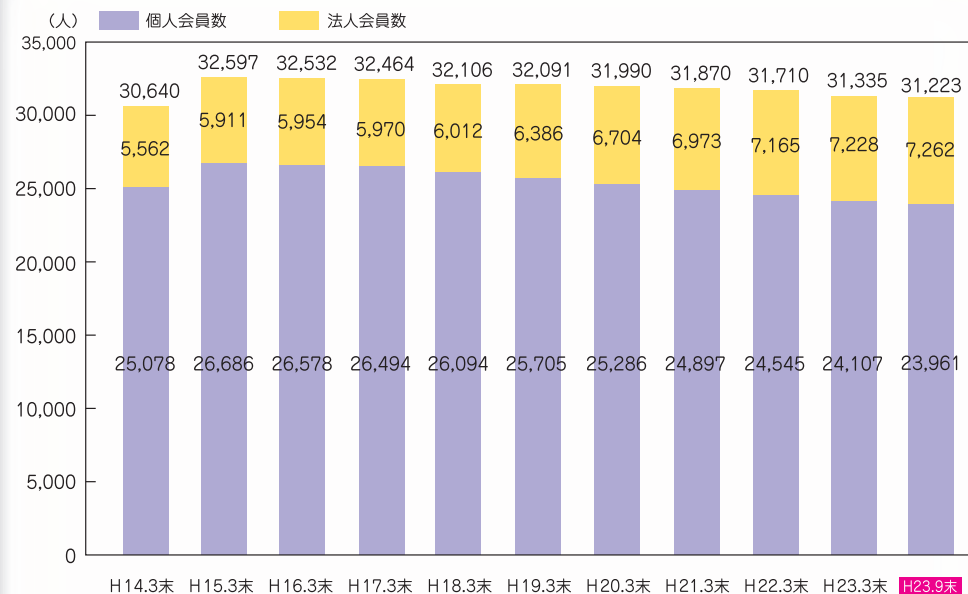
自己資本の額は316億円で、そのほとんど(94%)が中核的自己資本(Tier 1)からなっています。自己資本の額はここ10年、おおむね300億円強で上下しつつ伸び悩んでいます。これは利益の積み上げができていないためです。

自己資本比率は、「自己資本の額÷リスクアセット」です。リスクアセットは、預金の増減による運用資産(なかでも貸出金)の増減に基本的に連動します。

預金が急拡大した時期、自己資本比率は緩やかに減少しましたが、このところはわずかながら上昇に向かっています。

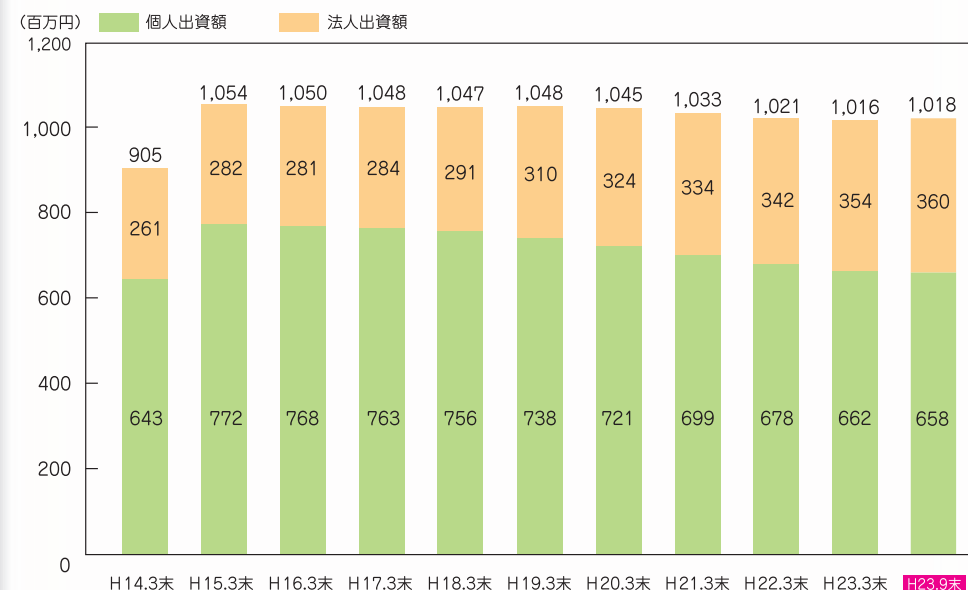
いずれにしろ、自己資本比率は10.71%、中核的自己資本(Tier 1)比率でも10.09%を確保しており、十分な水準にあると判断しています。

〈会員数〉



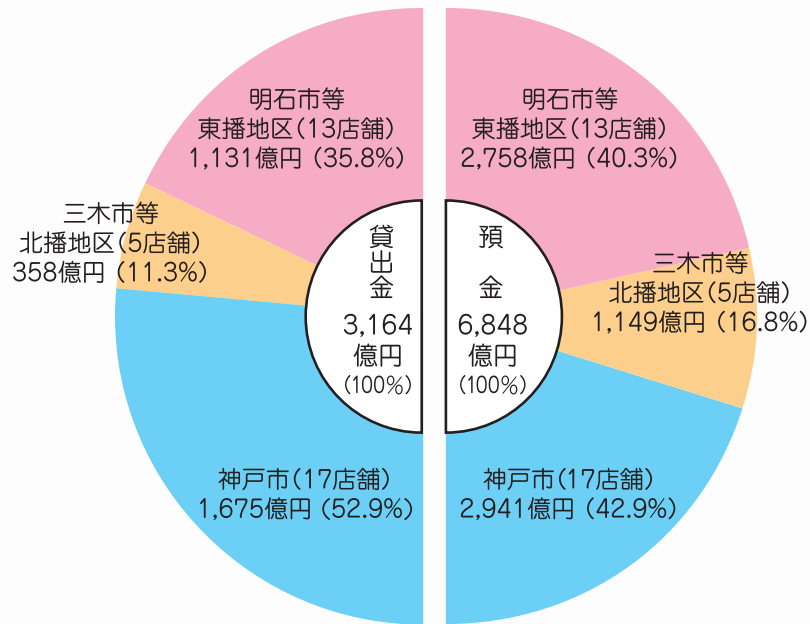
会員数は緩やかに減少しています。これは個人会員が減少しているためです。法人会員は一貫して増加しています。

〈出資額〉



出資の額も会員数と同じく個人出資が減少し法人出資が増加しています。出資額は少しですが増加に転じています。

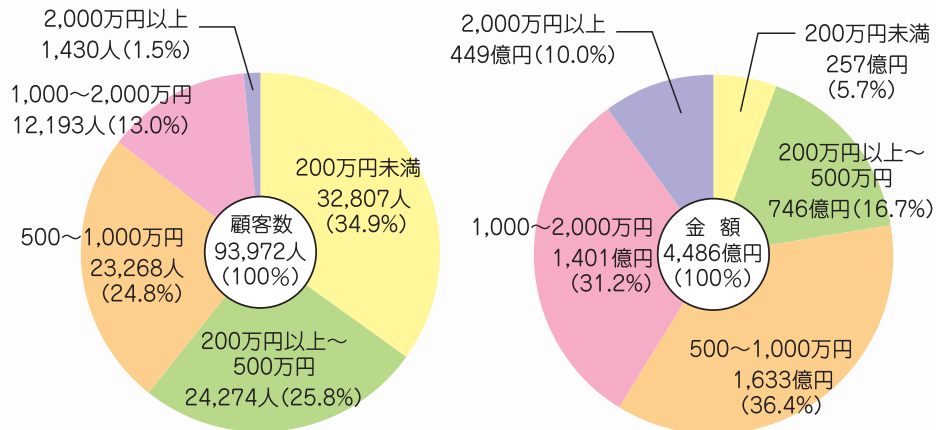
〈貸出金・預金の地域別構成〉（平成23年9月30日現在）



〈預金者のプロフィール〉

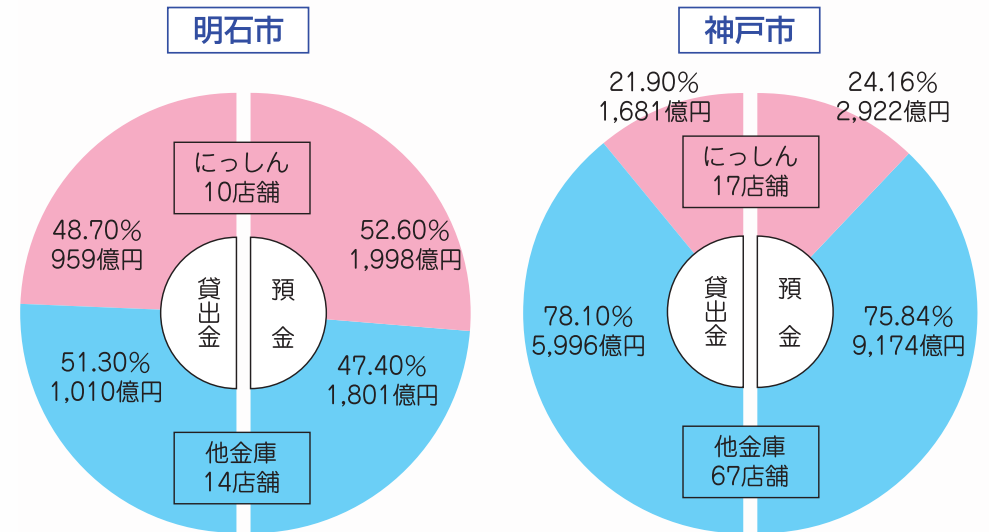
〈個人定期預金の残高階層別に見た顧客数と預金額〉

（平成23年9月30日現在）

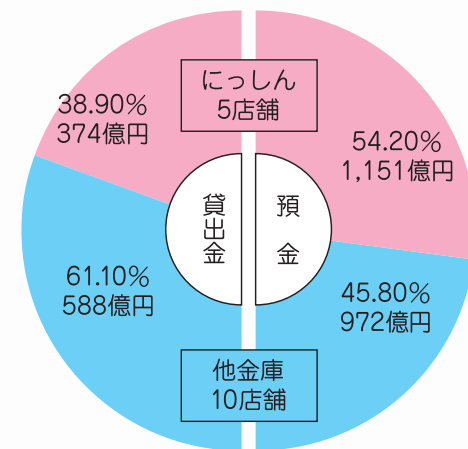


※預金は個人の定期預金残高を対象に作成しています。

〈信用金庫の中でのシェア（地域別）〉（平成23年3月31日現在）



三木市・小野市・加東市



店 舗 一 覧

明石市中央部

本店営業部	明石市本町2-3-20	078 (912) 4567
明石駅前支店	明石市桜町11-14	078 (911) 8181
人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078 (912) 0337
林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078 (922) 7431

明石市西部

西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078 (923) 1101
市場支店	明石市藤江2029-1	078 (921) 3020
大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078 (936) 2165
江井ヶ島支店	明石市大久保町江井島739-3	078 (946) 0623
魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078 (947) 6799
二見支店	明石市二見町東二見887-1	078 (942) 1221

加古川市・高砂市・播磨町

加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079 (422) 6066
宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079 (432) 8711
本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079 (435) 3270

三木市・小野市・加東市

三木支店	三木市大村63-9	0794 (82) 5211
緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794 (84) 1231
小野支店	小野市上本町237-2	0794 (63) 1135
天神支店	加東市天神492	0795 (47) 1011
滝野支店	加東市上滝野2413	0795 (48) 2010

神戸市東部

本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078 (431) 1061
魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-6	078 (411) 3281
六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078 (841) 0141
西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078 (802) 1431

神戸市中央部

神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078 (231) 2731
神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078 (391) 0222
宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078 (341) 4502
兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078 (671) 3443
平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078 (361) 0411
板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078 (735) 6001

神戸市北部

鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-20	078 (591) 1221
ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078 (743) 1621
藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078 (982) 2489

神戸市西部

垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078 (706) 2222
舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078 (784) 8171
伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078 (975) 0571
玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078 (928) 6110

〈 H23.9月期仮決算の開示 〉

資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	平成22年9月末	平成23年9月末	増 減	平成23年3月末
現金・預け金	211,698	201,488	△10,209	182,302
コールローン	—	—	—	—
有価証券	196,077	200,270	4,193	192,665
貸出金	317,636	316,463	△1,173	318,395
事業性貸出金	262,533	261,385	△1,148	262,197
貸倒引当金	△ 7,813	△ 6,986	826	△6,299
うち個別貸倒引当金	△ 5,277	△ 4,383	893	△3,730
資産の部合計	729,144	722,333	△6,811	698,461
負債及び純資産の部				
預金積金	690,335	684,806	△5,528	662,642
個人預金	588,671	582,406	△6,265	580,704
負債の部合計	697,312	690,768	△6,544	668,173
出資金	1,013	1,018	5	1,016
利益剰余金	28,009	28,739	730	28,609
その他有価証券評価差額金	2,808	1,805	△1,002	662
純資産の部合計	31,831	31,564	△266	30,288
負債及び純資産の部	729,144	722,333	△6,811	698,461

業種別貸出金の状況

(単位:百万円、%)

内 訳	平成22年9月末		平成23年度9月末		残高増減
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	45,385	14.3%	45,136	14.3%	△249
農業・林業	165	0.1%	98	0.0%	△67
漁業	327	0.1%	311	0.1%	△16
鉱業・採石業・砂利採取業	38	0.0%	34	0.0%	△4
建設業	29,747	9.4%	28,784	9.1%	△963
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—
情報通信業	1,212	0.4%	1,147	0.4%	△65
運輸業・郵便業	12,546	3.9%	12,625	4.0%	79
卸売業・小売業	41,130	12.9%	42,031	13.3%	901
金融業・保険業	1,576	0.5%	1,483	0.5%	△93
不動産業	69,542	21.9%	68,854	21.8%	△688
物品賃貸業	1,668	0.5%	1,511	0.5%	△157
学術研究・専門・技術サービス業	945	0.3%	1,155	0.4%	210
宿泊業	1,043	0.3%	1,108	0.4%	65
飲食業	6,774	2.1%	6,444	2.0%	△330
生活関連サービス業・娯楽業	10,029	3.2%	8,860	2.8%	△1,169
教育・学習支援業	1,333	0.4%	1,297	0.4%	△36
医療・福祉	22,736	7.2%	24,939	7.9%	2,203
その他のサービス	16,336	5.1%	15,563	4.7%	△773
小 計	262,533	82.6%	261,385	82.6%	△1,148
地方公共団体	9,429	3.0%	11,088	3.5%	1,659
個人(住宅・消費・納税資金等)	45,674	14.4%	43,990	13.9%	△1,684
合 計	317,636	100.0%	316,463	100.0%	△1,173

損益の状況

(単位:百万円)

項 目	平成22年9月末 (平成22年4月1日～9月30日)	平成23年9月末 (平成23年4月1日～9月30日)	増 減
業務粗利益……………②	4,419	4,493	73
資金利益	3,967	3,970	3
役務取引等利益	231	228	△3
その他業務利益	220	294	73
一般貸倒引当金繰入額…③	△13	34	48
経費……………④	3,210	3,361	150
業務純益……………①	1,222	1,097	△124
実質業務純益……………⑤	1,208	1,132	△76
臨時損益……………⑦	△622	△644	21
うち不良債権処理額	537	711	174
うち株式関係損益	—	△27	△27
経常利益……………⑥	599	453	△145
特別損益	256	0	△255
税引前当期純利益……………⑨	855	453	△401
当期純利益……………⑧	510	170	△339

■主な項目の計算方法

- ①業務純益 = ②業務粗利益 - ③一般貸倒引当金繰入額 - ④経費
- ⑤実質業務純益 = ①業務純益 + ③一般貸倒引当金繰入額
- ⑥経常利益 = ①業務純益 + ⑦臨時損益
- ⑧当期純利益 = ⑨税引前当期純利益 - 法人税等合計

不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

(単位:百万円)

区 分	平成22年9月末	平成23年9月末(A)	増 減	平成23年3月末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	4,730	3,349	△1,381	3,038
危険債権	11,944	14,021	2,077	13,032
要管理債権	1,750	4,370	2,620	3,184
不良債権合計	18,426	21,742	3,316	19,255
正常債権	301,321	296,418	△4,903	300,859
合計	319,747	318,161	△1,586	320,115
不良債権比率	5.76%	6.83%	1.07%	6.01%

保全状況(平成23年9月末)

(単位:百万円)

区 分	担保・保証額 (B)	担保・保証のない部分 (C)=(A)-(B)	引当額 (D)	(C)に対する引当率 (D)/(C)	保全額 (E)=(B)+(D)	保全率 (E)/(A)
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,648	1,701	1,701	100.00%	3,349	100.00%
危険債権	9,053	4,968	2,484	50.00%	11,537	82.28%
要管理債権	1,237	3,133	221	7.08%	1,459	33.38%
不良債権合計	11,939	9,803	4,407	44.95%	16,346	75.18%

有価証券の状況

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

内 訳	平成22年9月末				平成23年9月末			
	時価	評価差額	うち益	うち損	時価	評価差額	うち益	うち損
その他有価証券	196,077	4,083	5,200	1,117	200,270	2,625	4,220	1,595
国債	42,677	1,098	1,361	262	57,817	1,402	1,446	44
地方債	62,901	1,548	1,552	4	57,087	1,276	1,277	1
社債	78,214	2,229	2,259	30	77,471	674	1,486	812
うち 政府保証債	25,752	1,170	1,170	—	24,956	869	869	—
うち 公社公団債	3,899	32	60	28	2,588	30	46	16
うち 金融債	7,287	52	52	0	11,418	64	67	2
株式	131	△38	—	38	115	△27	—	27
その他	12,013	△753	27	780	7,639	△700	10	710
満期保有目的の債券	—	—	—	—	—	—	—	—
売買目的有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—
子会社・関連会社株式	139	—	—	—	139	—	—	—

※ 評価差額は、9月末日の帳簿価格(償却原価法適用後、減損処理後)と時価の差額を計上しています。

※ 時価は9月末日の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組合出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としております。

自己資本の状況

単体自己資本比率

(単位:百万円)

項 目	平成22年9月	平成23年9月	増 減	平成23年3月
出資金	1,013	1,018	5	1,016
利益準備金	1,021	1,016	△4	1,016
特別積立金	26,270	27,270	1,000	27,270
次期繰越金	717	453	△264	282
その他有価証券の評価差損(△)	—	—	—	—
基本的項目計 ……………(A)	29,022	29,758	736	29,585
一般貸倒引当金	2,579	2,652	72	2,616
補完的項目不算入額(△)	724	809	84	778
補完的項目計 ……………(B)	1,855	1,843	△11	1,838
控除項目計 ……………(C)	—	—	—	—
自己資本額(A)+(B)-(C) ……(D)	30,877	31,601	724	31,424
リスク・アセット等計 ……………(E)	296,810	294,901	△1,908	294,152
単体自己資本比率(D)/(E)	10.40%	10.71%	0.31%	10.68%

※ 「信用金庫法89条第1項において準用する銀行法14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。自己資本比率規制の一部を弾力化する特例(平成20年金融庁告示79号)に基づき算出していますが、この特例を考慮しない場合においても自己資本比率に影響はありません。

■ 本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。

■ 本誌に掲載している計数については、会計監査人による監査を受けていません。